

大分教育事務所訪問 18

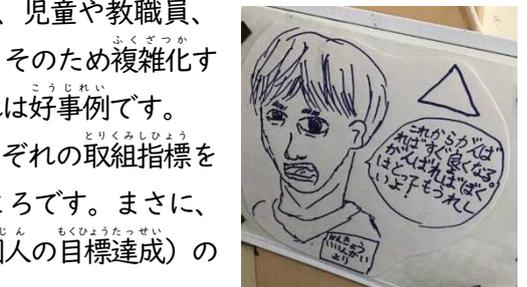
津久見市立堅徳小学校から学ぶ



NO.99 2021年6月 津久見市立堅徳小学校

自立した学習者

教室ではペアやグループで学び合う。そして、最後は個にかえる。



教室ではペアやグループで学び合う。そして、最後は個にかえる。



NO.100 2021年6月 津久見市立堅徳小学校

公の場だから

教室は公の場。だから、挙手は腕をまっすぐに伸ばし、指先まで集中する。

身を乗り出す

学ぼうとする意欲が身体や表情に現れる。

NO.98 2021年6月 津久見市立堅徳小学校

授業から学ぶ

どの授業も「ねらい」が明確なため、多くの子ども達が自分らしさをだしながら学びに向かっています。また、それぞれ個人で考えたことを、タブレットやポップカードを活用して比較するような工夫がなされていました。

今後は、授業の「ふりかえり」の場面で、子ども達がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、具体的なゴールの姿を、子どもを主語にイメージをすることで、「めあて」との連動や、評価規準がより明確になると思いました。

4点セットについては、取組指標については、それぞれの担当者とチームが、教職員や保護者の取組（アウトプット）と、児童の学力、体力の状況やアンケート（アウトカム）の指標を定め、短期で検証を行うことで検証方法が的確かどうかをふりかえり、よりよい取組指標となるよう改善を行っています。また、取組指標が適正に評価されるよう、児童や教職員、保護者等のアンケートから判断したり、複数の項目で検証しています。そのため複雑化するデータも、番号で整理することで処理をしやすくしています。これは好事例です。

また、注目すべきは、個々の教職員の目標管理と学級経営案とそれぞれの取組指標を見事にリンクさせていることで、教職員のやる気を引き出しているところです。まさに、「一人はみんな（組織の目標達成）のために。みんなは（て）一人（個人の目標達成）のために」ですね！

今後は、「自考自学」を目指すために、子どもや教職員だけでなく、地域や保護者も当事者意識を持つために、学校をあげて「育成を目指す資質・能力」（教科横断的）を設定することでより協働的な取組が進むことが期待されます。